

駅伝におけるライフスキルの獲得と人格形成

Life skills learning and character building in Ekiden

1K04A100

酒井 房樹

指導教員

主査 山崎勝男先生

副査 葛西順一先生

目的

著者は小学校の頃から陸上競技に携わってきた。その経験から、競技で成功を収めている長距離選手について、彼らが競技においてのみならず人格的にも優れた人物であるという印象を持った。

日本の陸上長距離の歴史においても、中村清監督と瀬古利彦選手、小出義男監督と高橋尚子選手といった、そのエピソードが人々に影響を与える名監督・名選手が多数いる。著者はその理由の一つが「駅伝」という我が国発祥の競技種目にあると考える。著者自身、学生時代に尽力したこの競技が少なからず自らの性格・価値観の形成に影響したと感じている。よって、本研究は、「駅伝が人格を形成する」という仮説を立て、先行研究をもとに駅伝の特質と人格形成との関係性を検証し、仮説の正当性を主張することを目的とする。

1. はじめに

本研究は文献研究によって行う。人格形成を為し得る要素は様々考えられるが、ここでは特にライフスキル(Danish et al., 1995)に着目する。ライフスキルはWHO(1997)により「日常生活で生じる様々な問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力」と定義されている。欧米などでは、広くスポーツ活動がライフスキルの獲得につながるとされてきた(Orlick, 2002, 2000; Smith & Smoll, 2001, 1999)。駅伝という競技をいくつかの視点から分析し、自らのランナーとしての経験も踏まえながら、ライフ

スキル獲得の場としての可能性を探る。

2. ライフスキルと人格形成

「駅伝はそのスポーツパーソンシップの発達を通して選手のライフスキルを伸ばし、人格を形成する」という主張を展開する前に、この不完全な仮説を適切なものとするため、まずは選手がどのような人格を獲得すべきなのか、また、そもそも人格とは何かを吟味した。さらにWHOの提唱する10個のライフスキルを深く掘り下げ、スポーツスキルとの関係性について考察した。

3. 駅伝とは

駅伝の特徴について深く掘り下げていく。その起源から歴史を追い、他のスポーツとの特質的な違いについて考察する。結論としては、「目標設定と結果の明確さ」「情動や忍耐などセルフコントロールの必要性」「共感と感動」といった特徴が挙げられた。

4. 豊川工業高校陸上部からみるライフスキル

ライフスキルの要素の一つに自己認識スキルというものがある。自己認識はその性質上、競技を離れた場面でも同様に起こり得ると考えられる上、その他のライフスキルにも大きく影響を与えるものである。ここでは、駅伝を通して自己認識スキルを高めた実例として、愛知県立豊川工業高校陸上部のエピソードを題材に考察した。

5. 達成目標理論と駅伝選手のバーンアウト

前章で取り上げた自己認識の概念を更に掘り

下げ、駅伝選手がバーンアウトしてしまう原因について検証する。結論としては、目標設定段階で「自我関与」的なものではなく、「課題関与」的な目標を設定することが選手のバーンアウトを防ぐ上で重要であると考えられる。

6. ライフスキルへの般化と人格形成

ここで再度、これまで言及してきたライフスキルが、本当に選手の人格を形成するのか考察する。

結論としては、集団における価値観が一人ひとりの人格を形成するという点において、確かに駅伝は選手の人格を形成すると言えるだろう。事実、強いチームや勢いのあるチームは、みな一様に明るい顔で生活している。それは、ただ競技に勝つからといった単純な理由からくるものではなく、自らの人生に対する確信と希望の表れであるに違いない。今後も、駅伝という素晴らしいスポーツの発展と、それに携わる人々の人生が豊かなものになることを願って止まない。